



保育事業者の 親子支援実態に関する 調査報告書

2024年7月16日

Florence

本調査の目的

以下の2点を明らかにすることを目的に調査を実施しました。

- 1** 支援が必要な保護者や子への対応に、
保育所等が現在どのように取り組んでいるのか？
- 2** 関係機関との連携ができていない園はどれくら
いいるのか、連携の阻害要因は何か？

本調査の骨子

保育園等における親子支援について、支援対象の観点から3つの分類にわけて、各種設問を設計し、調査を実施しました。

在園児に関する
個別支援

在園児の
家庭への支援

在園家庭以外の
地域の子育て支援



それぞれの支援場面において

- 園内でどのような体制で取り組んでいるのか？
- 関係機関との連携はどのように実施しているのか？
- 園がどのような困り感を抱えているのか？

アンケート調査の実施方法

実施期間	2023年11月21日～2023年12月15日
実施方法	Questant(マクロミル)を利用したWebアンケート
実施者	特定非営利活動法人フローレンス
対象	全国の 認可保育所、認定こども園、地域型保育事業、幼稚園
回答数	236件

A white sheet of paper is centered on a brown background. A black binder clip is attached to the top edge of the paper. To the left of the paper, there is a silver pencil with a black eraser and a small silver eraser. The Japanese word "サマリー" (Summary) is written in black text on a light gray rectangular background that is centered over the paper.

サマリー

1 支援が必要な保護者や子への対応に、 保育所等が現在どのように取り組んでいるのか？

在園児に関する 個別支援

86%の園が自治体の専門機関・窓口相談しながら取り組んでいる。しかし、自治体等の巡回相談を利用している園は半数程であり、実際の保育場面で外部から助言を得る機会の有無は園によって差がある。

在園児の 家庭への支援

自治体の窓口相談しながら取り組んでいるが、具体的な対応について自治体と一緒に検討できていると回答したのは6割前後。残り半数近くから「相談したあとに自治体と一緒に動いてほしい」との期待があがっている。人手不足や専門性の不足なども課題となっている。

在園家庭以外の 地域の子育て支援

多くの園が育児相談やイベント等を通じて、在園児以外の地域の家庭の子育て支援に取り組んでいる。しかし、得られる情報が限られている中で、家庭の課題に出会った後の、継続的な支援に移行していく難しさが今後の課題となっている。

1 支援が必要な保護者や子への対応に、 保育所等が現在どのように取り組んでいるのか？

自由記述の内容からは、保護者やこどもの状況、保育園に期待される役割が変化していく中で、それに見合った体制が築けず、**大きな負担や課題を抱えている状況**も見られている。
この状況を解決していくために、行政に対する期待として強いメッセージも多数寄せられていた。

保育についての仕事量が多い上に、保護者支援、地域支援まで行うことに疲弊しています。保育園の役割が多すぎる。人手があれば実行できることもありますが、ここ数年保育士確保が厳しく、姉妹園は年間通して派遣を利用していた所もあります。保育士の賃金をアップし、なり手を増やしていかなければ、日常の保育さえままならない状況になると感じています。

行政が園に丸投げするのではなく、園が抱えている大変な家庭の支援などを理解し、もっと園に寄り添って解決していけるような支援が必要と感じる。年々大変な親・家庭が多くなっているが、行政はいつも園に丸投げの状態である。

2 関係機関との連携ができていない園はどれくらいいるのか、 連携の阻害要因は何か？



約8割の保育施設が、在園児の発達課題や、家庭への支援の必要性を感じた際には、専門機関や自治体の窓口にご相談できると回答している。

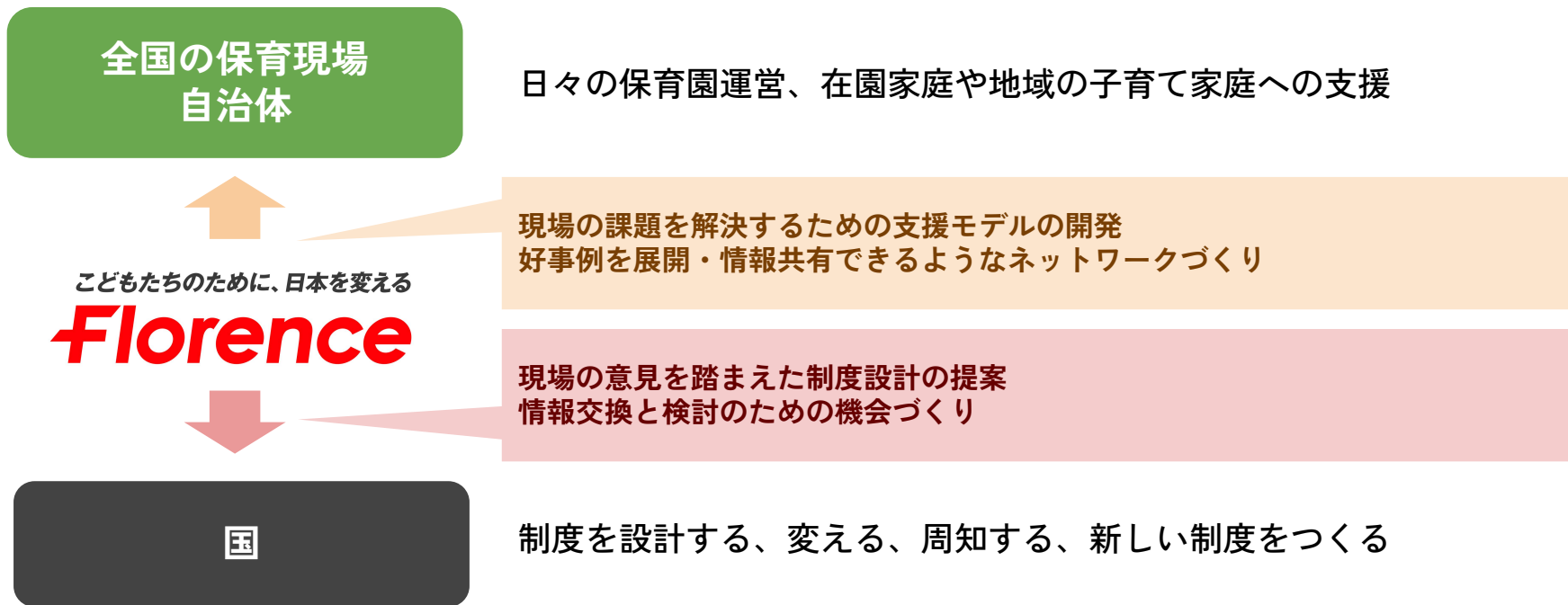


一方で、相談後の具体的な対応を関係機関と一緒に検討することができる、と回答する園は6割前後にとどまる。

その背景要因として、保育園側・自治体側それぞれの人手不足の課題や、相談支援を実施するにあたっての保育園の専門的知識、および知識を身につけるための時間と機会の不足等が課題になっている。

特定非営利活動法人フローレンスが目指していくこと

全国の保育現場と国、自治体と協働しながら、現場の実態に即した、制度の課題解決や事業創出に取り組む必要性・重要性を、今回の調査を通して再確認しました。情報交換のための機会づくりや、全国の保育現場を支援するためのモデル開発に取り組んでいきます。



A white sheet of paper is centered on a brown background. A black binder clip is attached to the top edge of the paper. To the left of the paper, there is a pencil and a sharpener. The pencil is silver with black dots and a grey eraser. The sharpener is silver and black. The text "集計結果" is written in the center of the paper.

集計結果

在園児に関する 個別支援

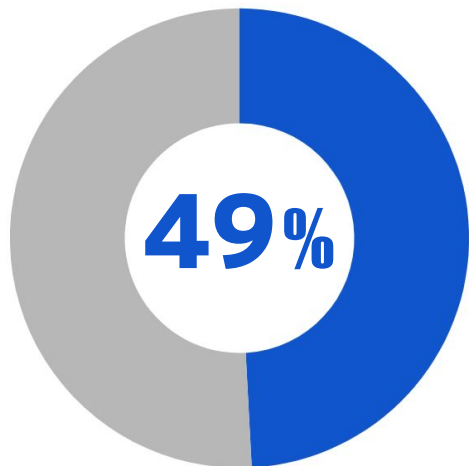
在園児の
家庭への支援

在園家庭以外の
地域の子育て支援

在園児の個別支援について、巡回相談や保育所等訪問支援等を通して、外部から助言を得る機会の有無は園によって差がある。

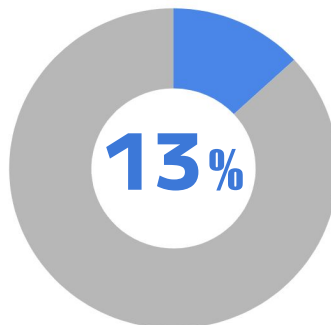
もっとも利用割合が高い自治体による巡回相談においても、利用園の割合は約半数程度。

自治体による巡回相談を利用している園の割合



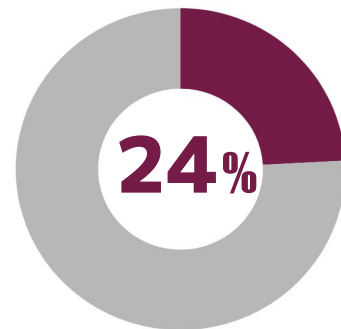
● 利用している ● 利用していない

法人で契約している心理士による巡回相談を利用している園の割合



● 利用している ● 利用していない

保育所等訪問支援事業を利用している園の割合

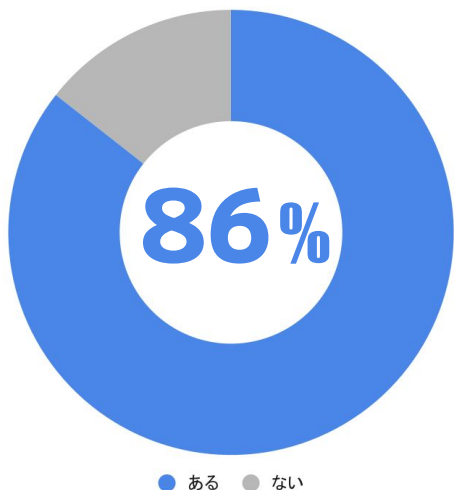


● 利用している ● 利用していない

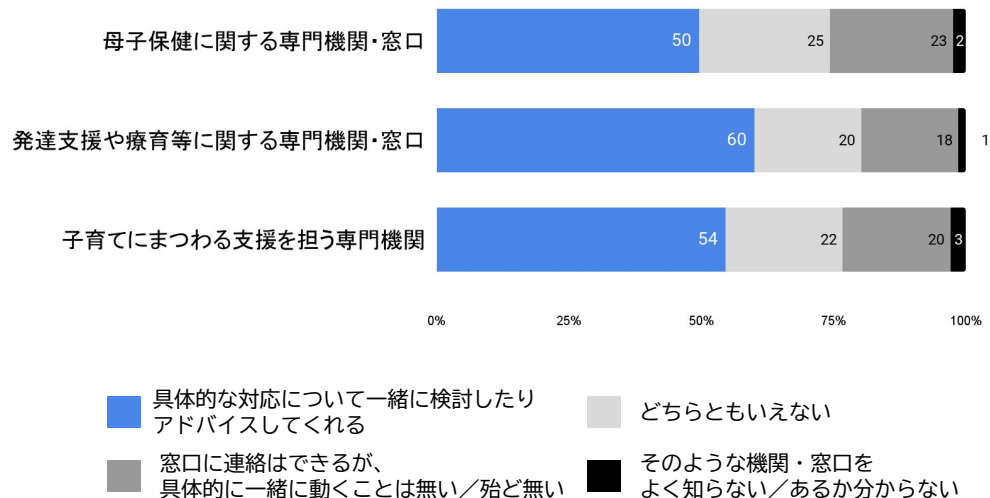
86%の園が、自治体の発達支援や療育等に関する専門機関等の窓口相談しながら対応にあたっている。

相談先の評価については、いずれの窓口についても、「具体的な対応についてアドバイスしてくれる」という園が半数程度。

在園児の発達や障害に関する課題に気づいた際や、支援の必要性を感じた場合、園外に相談先はありますか。

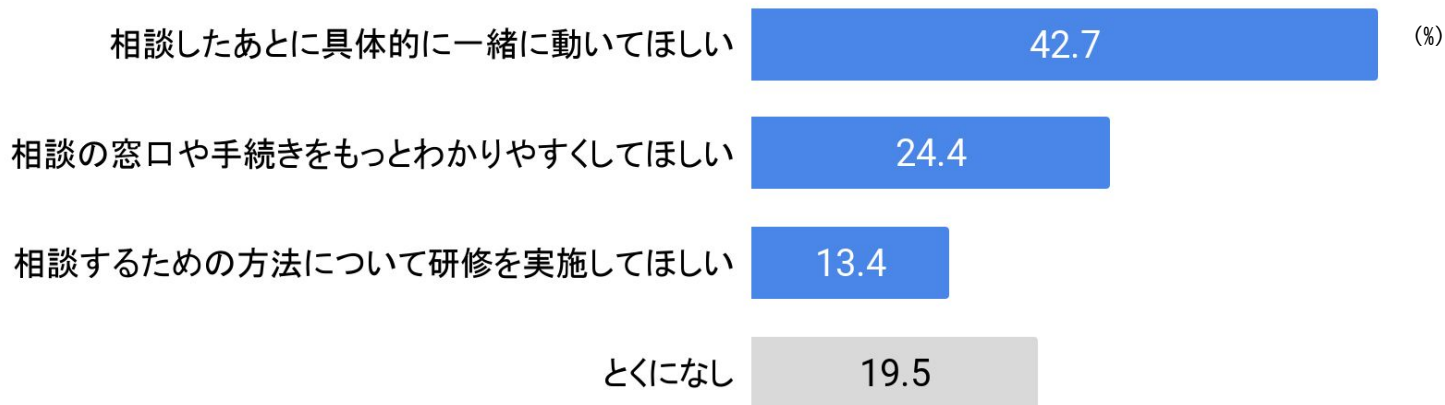


在園児の発達や障害に関する課題に気づいた際や、支援が必要になった場合の相談先の評価



残り半数の園にとっての相談先に対する評価は、
「相談後、具体的に一緒に動いてほしい」という期待が高い。

「窓口で連絡はできるが、具体的に一緒に動くことは無い／殆ど無い」
「そのような機関・窓口をよく知らない／あるか分からない」にチェックをつけた相談先に対して、期待することはありますか。



その他の自由記述では、以下のような回答が寄せられた。非協力的な対応を経験すると、その後の対応

行政機関の対応
・ 施策について

市の施策をきちんと実行してほしい。／行政自体が積極的ではないと感じている。現在園長会を通して子家センとの連携を取れるように要望しているところです。

進捗報告について

現場からの要望を受けた場合、進捗を知らせてほしい。

非協力的な
対応について

発達の問題を伝えても、親が動かないとどうしようもできないといわれる。特に問題なしと言われてしまうと、保護者は安心しきって、その後へ繋げることが難しくなる。／相談に否定的でこちらも相談する気力をそがれたケースがある。

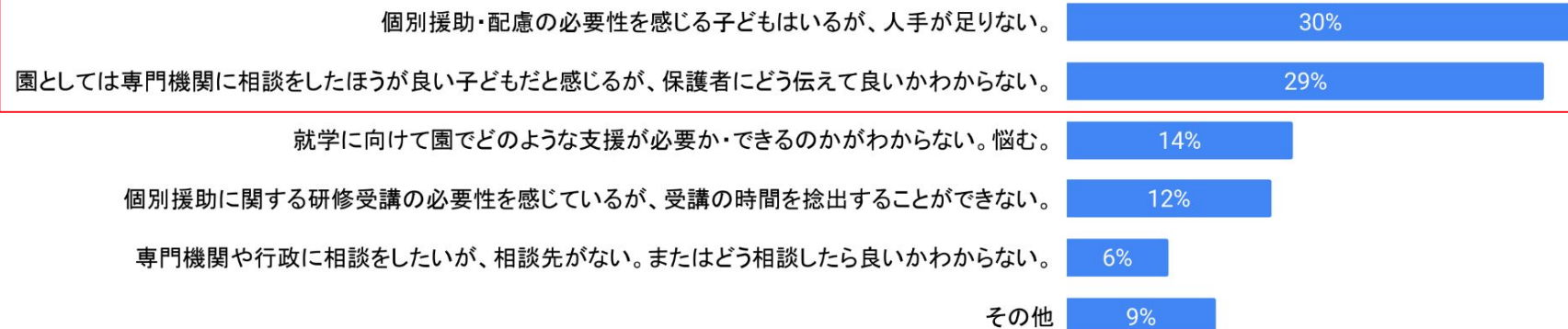
人手不足に関して

人手不足を解消して欲しい

在園児の個別援助を実施するにあたり、困っていること

在園児の個別配慮・支援を実施するにあたり、個別配慮をするための人手が不足していることや保護者への伝え方が課題になっている。

在園児の個別援助を実施するにあたり、困っていることとしてあてはまるものをお選びください。(%)



選択肢以外の自由記述では、以下のような回答が寄せられた。個別支援を進めるにあたって、保護者との認識合わせに苦慮している様子がみられる。

保護者との コミュニケーション

園は配慮の必要性を感じているが、保護者は問題ないと思っており、意識の相違がある。／保護者との認識の違いに悩む。／保護者への伝え方。

給与・加配職員

個別援助・配慮が必要な場合の加配職員に対する財政的支援が月額4万円未満で到底人を雇えない。／入職したばかりの非正規職員は、加配について研修時間や園としてはどのように対応していく方向性かの共有の時間の確保が課題である。

専門職との連携

保育以外の専門職からの視点を加えて援助全体を振り返りたい。／専門家の不足。

行政・自治体の対応

自治体の保健師が動いてくれない。／園と学校と役所と専門組織のつながりが薄いお互いの事業に興味なさすぎる。

小規模園における 対応

2才児迄の小規模園なので、相談しても巡回は後回しになってしまう。また、月齢的に経過観察になってしまうことがほとんどなので、加配を必要とされることはなかなかない。また、加配が認められたところで人材不足のため難しい。

地域社会の理解

地域の方々に障害の理解をなかなかしてもらえない。

在園児の 家庭への支援

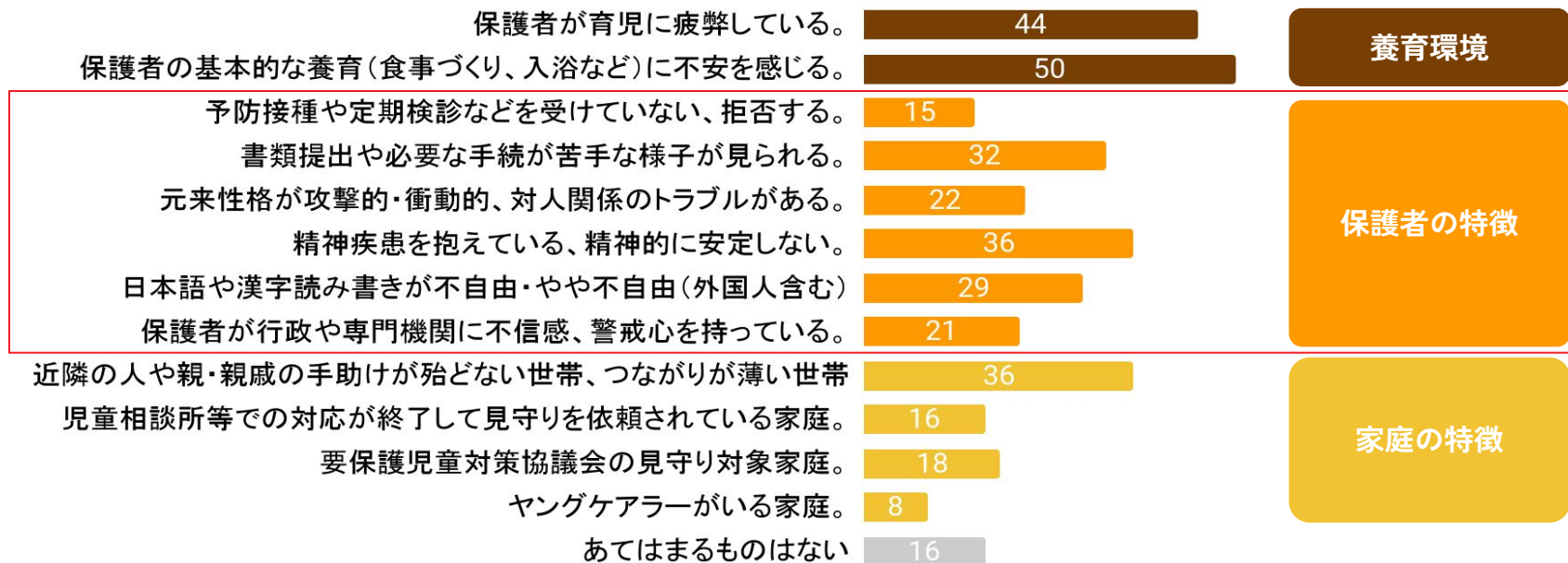
在園児に関する
個別支援

在園家庭以外の
地域の子育て支援

本調査における保育園等にとっての「気になる家庭」の実態

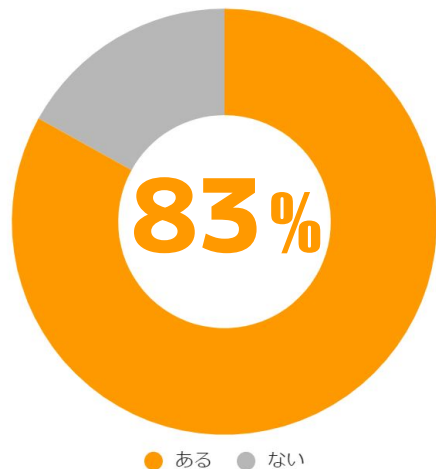
「気になる家庭」の具体例としては、行政への拒否感、精神的な不安定さなどの点も設問に含めた。こうしたコミュニケーションに留意が必要で、相談や支援につながりにくい特徴がある家庭が「いる」と答えた園はそれぞれ約3割となっており、全国の保育現場に共通していることが読み取れる。

Q 「気になる家庭」「園として個別配慮の必要性を感じる家庭」についての質問です。以下のような家庭が通園家庭の中にいますか。 (%)
 ※該当家庭が1つでもあればチェックしてください。

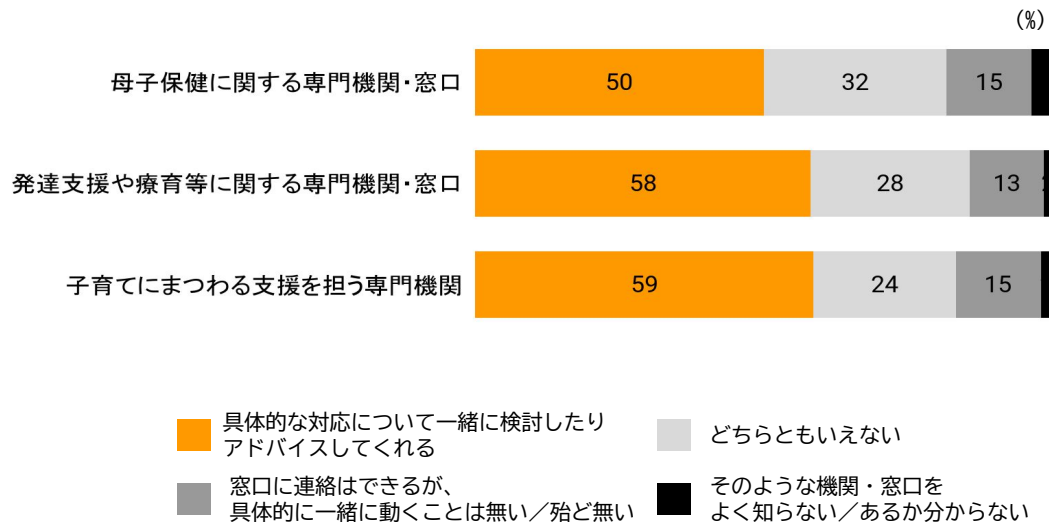


自治体の窓口が相談先となっており、相談先の評価についても「具体的な対応についてアドバイスしてくれる」という園が半数程度。

在園児の家庭の養育困難や困窮等の課題に気づいた際や、支援が必要になった場合、園外に相談先はありますか。



在園児の家庭の養育困難や困窮に関する課題に気づいた際や、支援が必要になった場合の相談先の評価として、あてはまるものをお選びください。



残り半数の園からは申込み手続きの簡易化以上に、
「相談したあとに一緒に動いてほしい」という期待があがっている。

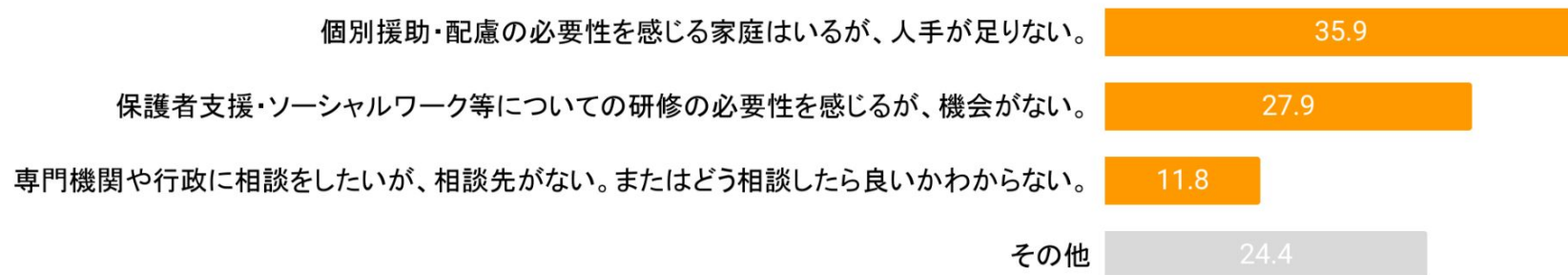
「窓口で連絡はできるが、具体的に一緒に動くことは無い／殆ど無い」
「そのような機関・窓口をよく知らない／あるか分からない」にチェックをつけた相談先に対して、期待することはありますか。



家庭に対する個別配慮・支援を実施するにあたり、困っていること

家庭に対する個別配慮・支援を実施するにあたり、困っていることとしては、「人手不足」に加えて、「保護者支援・ソーシャルワーク等の研修の必要性を感じるが機会がない」という課題も3割近くの園からあがっている。

Q 家庭に対する個別配慮・支援を実施するにあたり、困っていることとしてあてはまるものをお選びください。 (%)



選択肢以外の自由記述では、連携における課題として、自治体側の人手不足による対応の遅れ等も上げられている。

保護者との コミュニケーション

保護者支援が求められていることはわかっているが、どこまで行なうのか。保育士は子どもの専門であり、大人への対応はかなり難しい。／支援を受けたがらない保護者なので、支援につながっていない。

行政・自治体の対応

支援を要する子が年々増えてきているが、国や自治体の対応が乏しいため、毎年苦慮している。／市も人手不足で余裕がない。／専門機関や行政の対応が遅い。／行政機関の担当が変わると引継ぎがしつかりなされておらず一からの説明となる。

人手不足

外部研修への時間の捻出が難しい。／国からの給付費が上がれば雇用も増える為、行動の幅が広がると考えます。／

関係機関との連携

当該家庭に関わる自治体の方は複数見受けられるが、責任をもって主となる人は居ないと感じます。市の担当の方も非常に多くのケースを担当されて一つの家庭に多くの時間を割けないのも想像はできます。／自治体の専門機関だけでなく、民間の支援団体の力も借りたいが、社会資源が少ない。

専門性・専門職の不足

専門的な知識と資格を持った人に対応してもらいたいが、そのような人材を雇用して運営費から人件費を出すことが難しい。／内部で検討の場を持っているが、タイムリーにスーパーバイザーとして関わってくれる機関があると良い。

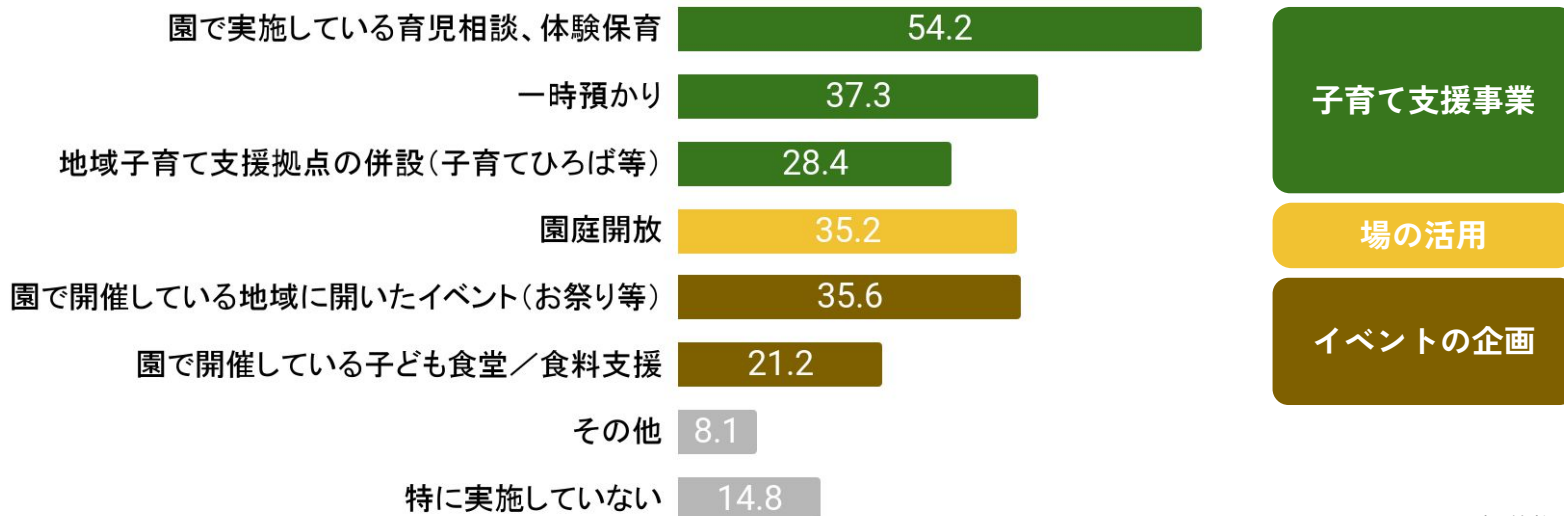
在園家庭以外の
地域の子育て支援

在園児に関する
個別支援

在園児の
家庭への支援

育児相談や一時預かり、園庭開放等を実施している園が多い。
お祭り等の、地域に開いたイベントを実施している園もある。

地域の子育て支援を目的とした、以下のような機会を提供していますか？ 当てはまるものをお選びください。（複数回答可）（%）



(回答数236件)

在園家庭以外の「気になる家庭」との接点について

在園家庭以外の「気になる家庭」については、接点をもったことはない園が多数派。接点をもったことがある場合は、園で実施している育児相談や体験保育等の機会が多くなっている。

在園家庭以外の「気になる家庭」と接点を持ったことはありますか。ある場合、どういった機会につながったかをお選びください。
(複数回答可)

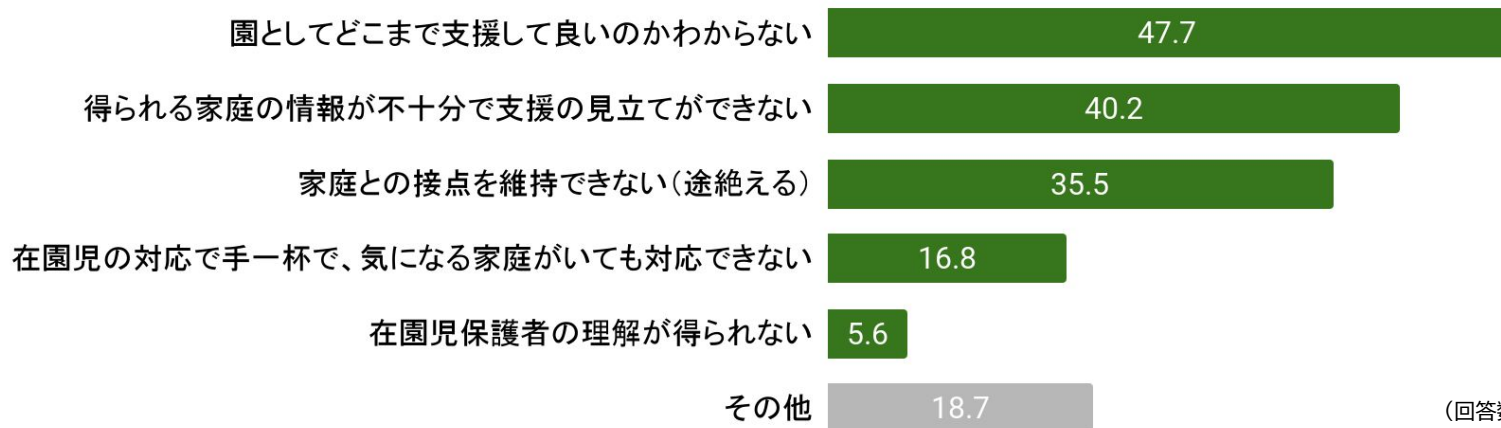


在園家庭以外の「気になる家庭」とつながる場面における課題

保育園の在園家庭以外の「気になる家庭」とつながる場面において、「園としてどこまで支援をしてよいかわからない」「得られる情報が不十分で支援の見立てができない」等の課題感があがっており、家庭の課題に出会った後の、継続的な支援に移行していく難しさが今後の課題となっている。

保育園の在園家庭以外の「気になる家庭」とつながる場面において、園で課題に感じていることを以下からお選びください。

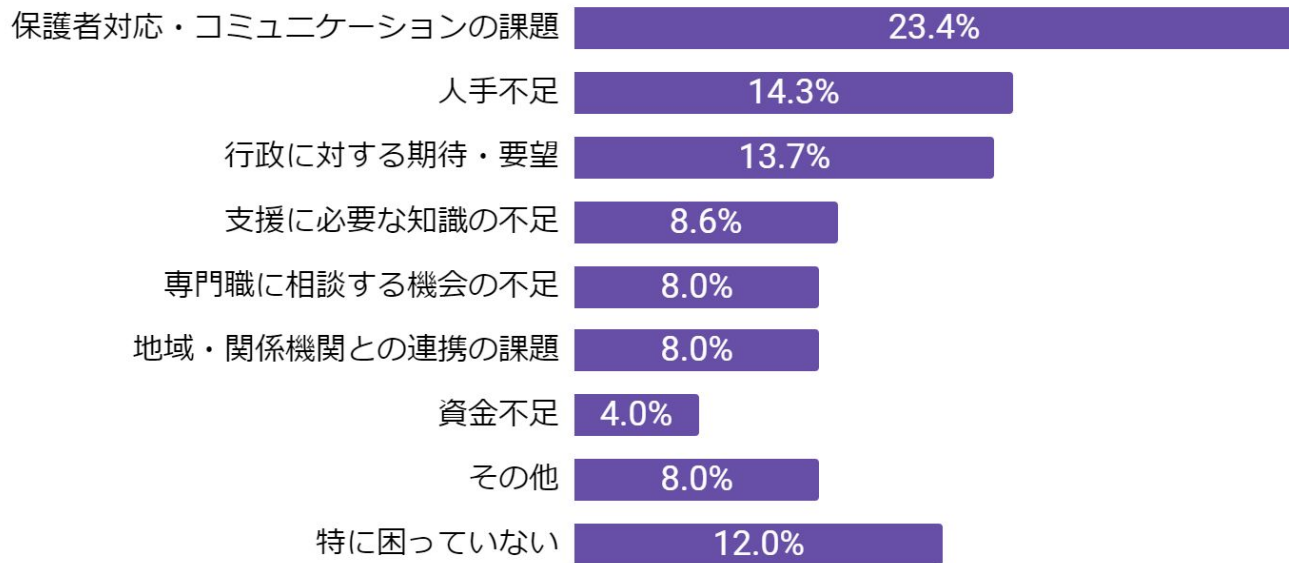
(%)



(回答数107件)

最後に園で親子への支援を実施するにあたって困っていることや必要としている支援について質問すると、147件の回答が寄せられた。

園で親子への支援を実施するにあたり、困っていることや園として必要としている支援についてご自由にご記入ください。



(回答数147件)

保護者やこどもの状況、保育園に期待される役割が変化していく中で、それに見合った体制が築けず課題を抱えている状況が見られている。

保護者対応・ コミュニケーション の課題

- ・保護者の考え方も様々なので何を求めているかを把握し必要な支援を…とは思いますが、なかなか個別の対応は難しい。
- ・全体的に保護者のコミュニケーション力の低下を感じる。働く親が多くなり、**忙しさから話し合いの時間なども取りづらくなっている。**
- ・保護者の受容と子どもの最善の利益のバランスを園だけで取ることは年々難しくなっているように思う。
- ・**要支援家庭が多すぎて対応しきれない。**

人材不足

- ・困っているご家庭にできる限りの支援をしたいが、**とにかく人手が足りないところから、支援ができなくなっている。**
- ・支援が必要な子どもは多いものの、人員不足で**日中を回すのに精一杯**なことが多い。人員不足のなか、支援なんて到底できない。
- ・**保育についての仕事量が多い上に、保護者支援、地域支援まで行うことに疲弊しています。保育園への役割が多すぎる。**人手があれば実行できることもありますが、ここ数年保育士確保が厳しく、姉妹園は年間通して派遣を利用していた所もあります。費用がかなりかかりますが、園児がすでに在籍している以上、仕方がない事です。やはり、保育士の賃金をアップし、なりてを増やしていかなければ、日常の保育さえままならない状況になると感じています。

この状況を解決していくために、行政に対する期待として強いメッセージも寄せられていた。

行政に対する期待・ 要望

・現場スタッフの「良心」や「やりがい」を搾取しがちな現実にも目を向けていただきたいですし、自分の手を使わない方々が理想論のみで話を進めてしまって現場との乖離が著しいことも否定できないので、せめて制度設計をされる方が現場に1週間程度入る経験をなされたら、より実情に即した支援策が見えてくるのではないかなーと思っております。

・行政が園に丸投げするのではなく、園が抱えている大変な家庭の支援などを理解し、もっと園に寄り添って解決していけるような支援が必要と感じる。年々大変な親・家庭が多くなっているが、**行政はいつも園に丸投げの状態**である。

・発達に関するグレーゾーンのお子さまが増えている。しかし、**保育士の配置基準にのみ重きが置かれ、実際支援が必要なお子さんに対応する職員不足は毎年ある**。国として、市町村単位としても支援の必要がみられるお子さまがいる場合の加配保育士の配置へ対する助成等の構築。また、配置するための基準や細かなルール、申請づくりをおねがいしたい。

支援に必要な 知識の不足

・困難ケースに該当する家庭への支援においては、**ソーシャルワークの視点や対人スキルについては保育と視点が異なることもあり**、特に現場の保育士が対応への難しさや苦手さをより感じてしまうと思う。ソーシャルワークの技術獲得や、対人スキルの獲得に向けた**専門職からの研修などがあると良い**。

・通常の保育園運営だけでも「保護者支援（個別対応）」が増加するなか、研修等の機会は設けてはいるが専門職からアドバイスをもらえるわけでもない中、**対応していること自体に不安が大きい**。